

脳神経内科で病理解剖を行なった患者さんのご遺族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、診療後の残余検体と診療情報等を使って行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。なお、この臨床研究は（委員会名）関西医科大学附属病院研究倫理審査委員会の審査を受け、研究方法の科学性、倫理性や故人の人権が守られていることが確認され、病院長の許可を受けています。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

《研究課題名》 ヒト剖検組織を用いた難治性神経疾患の病因の解明・治療法の開発に関する研究

《研究機関名・研究責任者》 関西医科大学附属病院・脳神経内科 職名 講師 氏名 中村 正孝

《研究の目的》多くの神経変性疾患では、神経細胞内に凝集した異常タンパク質が蓄積する。近年これらの構成成分として、タウ、 α シヌクレイン、ポリグルタミン、TAR DNA-binding protein 43 (TDP-43)などが同定されたが、未だ発症原因は不明で有効な治療法は確立していない。病気の原因を究明し、治療法を開発するために、疾患の経過に関与する蛋白を明らかにすることで、新たな薬物治療のターゲットを見出すことを目的とする

《研究期間》研究許可日～2031 年 3 月末日

《研究の方法》

●対象となられる方

1999 年 1 月 1 日から 2030 年 3 月末日までの間に総合医療センター及び附属病院において中枢神経を含めた剖検病理解剖を受け、病理診断を受けられた方。

神経変性疾患患者 48 名、対照者 12 名（腫瘍、自己免疫疾患、血管障害）

●研究に用いる試料・情報の種類

情報：診断名、年齢、性別、身体所見、神経学的所見、検査結果（血液検査、画像検査など）、病理学的所見、併用薬剤など

試料：剖検組織（脳、脊髄、硬膜）の病理標本

《この研究に関する情報の提供について》

この研究に関して、研究計画書や研究に関する資料をお知りになりたい場合は、他の方の個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

《この研究での検体・診療情報等の取扱い》

お預かりした検体や診療情報等には匿名化処理を行い、故人の氏名や住所などが特定できないように安全管理措置を講じたうえで取扱っています。

《本研究の資金源・利益相反について》

この研究は外部の企業等からの資金の提供は受けておらず、研究者が企業等から独立して計画して実施しているものです。したがって、研究結果および解析等に影響を及ぼすことは無く、故人や遺族の不利益につながることはありません。また、この研究の研究責任者および研究者は「関西医科大学利益相反マネジメントに関する規程」に従って、利益相反マネジメント委員会に必要事項を申請し、その審査と承認を得ています。

* 上記の研究に利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

《問い合わせ先》

関西医科大学附属病院 脳神経内科 担当医師 講師 中村 正孝

大阪府枚方市新町 2 丁目 3-1 電話 072-804-0101（代表） FAX 072-804-2549